

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-161
研究課題名 フッ化ピリミジン系抗がん薬の投与を受けたがん患者におけるピリミジン分解酵素の遺伝子解析
研究期間 西暦 2014年 6月（倫理委員会承認後）～2019年 5月
対象試料 ■病理試料（対象臓器名 切除臓器の正常上皮（例、胃癌であれば胃粘膜、膀胱であれば腫瘍周辺の正常膀胱組織）） □生検試料（対象臓器名 ） □血液試料 □遊離細胞 □その他（ ） 上記試料の採取期間 西暦 2004年 4月～2014年 5月
意義、目的 フルオロウラシル（5-FU）は主に肝臓でピリミジン分解酵素により代謝される。ピリミジン代謝異常症（DNP欠損症、DHPase欠損症）は極めてまれな疾患であるが、5-FU系抗癌剤を投与した場合、重篤な合併症をきたし、致死率も高いとされる。我々の先行研究によってDHPase欠損を来すDPYSのSNPsによりカペシタビン投与後に重篤な有害事象を発症したことを明らかにした。DPYSのこのSNPは日本人においては比較的高頻度に出現する可能性があり、本研究により日本人におけるフッ化ピリミジン系抗がん薬後に有害事象とDPYSのSNPsの関係が明らかに出来れば、今後のがん医療の個別化に向けた進歩になる。
方法（他の研究機関に試料・情報を提供する場合は、その旨も記載してください） 過去に東北大学病院化学療法センターでフッ化ピリミジン系抗がん薬による治療を受けた患者で重篤な副作用あるいは著明な臨床効果を得た患者が対象。公知された方法で切除された臓器のパラフィン包埋標本の正常組織よりgenomic DNAを抽出し、サンガー法により、DPYSおよびジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ(DPD)遺伝子(DPYD)の9つのエクソンおよびβ-Ureidopropionase 遺伝子についての直接シーケンスを行い、塩基多型あるいは変異の有無を検討する。
問い合わせ等の窓口 住 所：仙台市青葉区星陵町1-1 研究機関名：東北大学大学院医学系研究科 地域がん医療推進センター 電 話：022-717-7087 FAX：022-717-7896 担当者氏名：森 隆弘 (E-mail：) tamori@med.tohoku.ac.jp